

7月のみどころ

ファミリーパークの動物

- 馬屋（木曾馬）・・・在来種、全国で150頭ほど。2頭いますが、春葵は繁殖のため木曾に里帰り中
- キリン舎　・・・オスは角5本、メスが角3本。子供のマリン(メス)は現在1歳になりました。
- バートピア　・・・12種のインコ・ヨウムを飼育
- 郷土動物園　・・・外では親しんだタヌキ・キツネ・アナグマが飼育。近年呉羽丘陵にはキツネが増えているとも。ムササビ観察者は運が良ければ巣箱で寝ています。
- サル山　・・・今年3頭が生まれ、現在28頭飼育。
- シカ　・・・現在の雄の角は「袋角」と呼ばれ、血が通っています。
- イノシシ舎　・・・新入りイノシシ、名前「イノッチ」、11歳。
- スバルバル　・・・ノルウェーに住むライチョウ。年に2回換羽（ニホンライチョウは3回換羽）
- レッサーパンダ　・・・後ろ足で立つこともできる。
- タンチョウ　・・・江戸期までは日本全国にいました。今は北海道のみ。

呉羽丘陵

○カラタチバタ

冬の林床で目立ちますが、花が咲き始めました。葉は常緑で冬に赤い果実をつけ美しいので、鉢植えなど栽培もされます。同属のマンリョウ（万両）に対して、別名、百両（ヒャクリョウ）ともいいます。



○モリアオガエルの卵

ヒメゲンゴウ池の上に数個残っています。繁殖期の4～7月は、里山の池や沼の周囲で見られます。池にはオタマジャクシが泳いでいます。それ以外は森林にいるので、見つけるのは困難です。ちなみに本種は本州のみ生息。北海道や九州にはいません。



○エゴ/キの実

花が終わり、実が付きはじめました。実の果皮にはエゴサポニンという有毒成分が含まれています。実を水中ですりつぶすと白く濁って泡立つことから、昔から石鹸の代わりとして使われてきました。「シャボンの木」とか「石鹸の木」「サボン」といった呼び名もあります。

○ウワミスザクラの実

花が終わり実が付き始めています。実は、緑・黄・赤・黒紫と移り変わり、十分に熟した実は甘くて美味しいです。若い実を塩漬けにしたものは「杏仁香（アンニンゴ）」と呼ばれ、杏仁香を漬けた果実酒は、滋養強壮に良いとされています

